

トルコギキョウ低コスト冷房育苗方法の検討

表1 試験区の設定^{z)}

区	種子冷蔵 期間	冷房育苗温度	
		夜温	昼温
試験区1	5週間	18℃	28℃
試験区2	5週間	18℃	30℃
慣行区	3週間	15℃	25℃

z: 種子冷蔵は10℃で実施し、6月4日には種



写真 定植時の‘セレブリッチホワイト’の苗（2.5対葉）

表2 ロゼット株の発生率

品種 ^{z)}	区	育苗期間 ^{y)}	発生率 ^{x)}
		(日間)	(%)
ジュリアス ラベンダー	試験区1	44	0
	試験区2	42	0
	慣行区	56	0
デュール ラベンダー	試験区1	42	0
	試験区2	42	0
	慣行区	56	0

z: 特にロゼット化しやすい2品種を記載

y: 苗令2.5対葉となるまでの期間

x: 定植30日後に調査

表3 生育と切り花品質

品種	区	定植日	収穫日	切り花長	有効 花蕾数	ブラスティン 小花数
		(月/日)	(月/日)	(cm)	(個/株)	(個/株)
ジュリアス ラベンダー	試験区1	8/22	11/17	56.7	4.3	0.9
	試験区2	8/20	11/17	55.3	4.2	0.9
	慣行区	8/20	11/18	58.7	4.5	0.7
レイナ ラベンダー	試験区1	8/20	11/23	63.7	4.8	1.4
	試験区2	8/20	11/27	64.9	4.7	1.3
	慣行区	8/20	11/24	70.8	5.2	0.8
デュール ラベンダー	試験区1	8/20	11/21	59.1	5.2	0.8
	試験区2	8/20	11/22	57.8	4.7	1.1
	慣行区	8/20	11/23	62.1	5.6	0.4
セレブリッチ ホワイト	試験区1	8/24	12/3	68.3	4.5	1.2
	試験区2	8/24	12/5	67.8	4.4	1.4
	慣行区	8/24	12/7	69.7	4.4	1.2

トルコギキョウ栽培では、価格の高い秋冬期に出荷するため、夏期に育苗されています。ところが、高温下で育苗するとロゼット(節間が伸びない状態)株が生じるため、これを回避するために県内のトルコギキョウ農家の多くは、種子冷蔵(10℃で3週間)と冷房育苗(夜温 15℃、昼温 25℃)を併用して育苗を行っています。しかし、この方法では、高温期に冷房ハウス内で長期間管理する必要があることから、多くの電力を使用し、コストが高くなることが問題となっています。

そこで、冷房育苗期間を短縮するために、種子の冷蔵期間および冷房育苗の温度を検討しました(表1)。

種子の冷蔵期間を慣行より5週間と長くし、かつ育苗温度を高くすることで、12～14日間短い育苗期間で、やや大きめの苗ができ、定植後にもロゼット株は発生しませ

んでした(表2、写真)。

なお、いずれの品種においても収穫日に育苗方法による大きな差はなかったものの、冷房育苗温度を高くすると、切り花が短くなる傾向が見られました。また、‘デュールラベンダー’では、冷房育苗温度を夜温 18℃、昼温 30℃にすると、有効花蕾数が1花程度少なくなりました(表3)。

以上より、種子冷蔵を5週間行うことによって、冷房育苗の温度を夜温 18℃、昼温 28℃に上げてロゼット化せず、順調に生育すると考えられました。ただし、切り花や花蕾数への影響については、さらなる検討が必要であり、育苗期間中のコストについても継続して調査する予定です。

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「IoP (Internet of Plants)」が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化」の助成を受けたものです。

(花き担当 門田いづみ 088-863-4918)